



荒沢不動尊縁日

5月28日(水)、裏見滝で荒沢不動尊の縁日が行われ、関係者や地元の人たちなどでにぎわいました。滝の前に設置された護摩壇では、日光修験の行者たちによって護摩がたかれ、周囲は厳かな雰囲気になりました。

この日は真夏を思わせるような陽気でしたが、集まった人たちは滝の水しぶきや周囲のまぶしい新緑に涼感を得ていたようでした。



風の盆越中おわら

6月7日(土)、小杉放菴記念日光美術館で「風の盆越中おわらVI」が開催され、満席となる約150名の観客が訪れました。元禄年間から伝わる、越中おわら節という民謡に合わせて、踊り手たちが豊年踊りや男踊り、女踊りを披露しました。会場からは「素晴らしい」などの声が上がって、観

客を魅了していました。菊井さん(本町)は「友人に誘われて見に来ました。生で見ると一番良いですね。素晴らしいです」と満足した様子で話してくれました。最後に踊り手たちが、踊りの手ほどきをし、観客はこのイベントでの思い出を持ち帰りました。



平家大祭

6月5日(木)・6日(金)の2日間、湯西川温泉で、今回で30回目となる平家大祭が行われました。両日ともあいにくの大雨に見舞われ、このお祭りが始まって以来初めてメインの平家絵巻行列が中止となってしまいました。5日の前夜祭は、会場に溢れるほどの観客が集まり、平桜子さんによる琵琶演奏や湯西川着付け舞が上演されました。6日(金)の平家の里での神事な

どは予定通り行われ、中でも、第30回を記念して行われた山口県下関市の上臈道中一行による上臈参拜の美しさに、観客は目を奪われていました。埼玉県から訪れた川崎さん・半澤さん・大室さん・河倉さんは、「雨で残念でした。行列に参加しなかったですが、衣装を着てお祭りの雰囲気味わえてよかったです」と話してくれました。

天皇・皇后両陛下下行幸啓



天皇・皇后両陛下が、5月21日(水)・22日(木)の2日間、私的旅行で日光市をご訪問されました。両陛下は21日、渡良瀬遊水地などを巡られ、午後6時ごろに特別列車で東武日光駅にご到着されました。翌22日、両陛下は足尾環境学習センターと足尾庁舎にお立ち寄りの後、わたらせ渓谷鐵道の通洞駅からトロッコ列車にご乗車になり、日光を後にされました。

日光おお杉御田植祭



5月24日(土)、森友の瀧尾神社で、おお杉御田植祭が開催されました。この行事は、神社の大しめ縄作りに使用する稲を植えるもので、今年で14回目になります。この日は絶好の晴天に恵まれ、会場となった水田の周囲には、朝早くから大勢の関係者や見物客たちが集まりました。神官による水田のお祓いが終わると、田植え装束に身を包んだ早乙女や田男、子どもたちが、昔ながらの方法で苗を植えました。会場では巫女による浦安の舞などの奉納も行われ、集まった人たちは、古式ゆかしいあでやかな舞姿に見入っていました。この日植えられた苗は、「みとらず」と呼ばれるもので、その名のとおり穂が出る直前の8月中旬ごろに青刈りされます。その後、乾燥された稲は、県内最大の大し

め縄に加工され、瀧尾神社に奉納されます。田植えに兄と妹の3人で参加した今市の藤田淳之介くんは、「とても楽しかったです。田植えには何回も参加しています。うまく植えることができました。また来年も参加したいです」と笑顔で答えられました。青空と日光連山を映し出した水田に、植えられたばかりの苗が、優しく輝いていました。

今月の表紙 流鏑馬神事



5月17日(土)、すがすがしい新緑の山内表参道で流鏑馬神事が行われました。鎌倉時代の古式ゆかしい狩装束に身を包んだ射手や、江戸時代の武士の平服に似た姿の平騎射など15名が奉納しました。長さ約20mの馬場を駆け抜けながら、約55×55cm角の板でできていた3つの的を目掛けて、「陰陽射」という勇ましい掛け声とともに、馬上から矢を放ちました。次々と矢が的に当たると詰め掛けた観衆から大歓声が沸きあがりました。

真岡市から家族4人で見学に来た太田さんは、「今年仕事で休みだったので、久しぶりに見に来ました。疾走する馬と射手の一体感。とても迫力があり、何回見ても感動します」と非常に満足した様子で話してくれました。